

## 第7節 植物

### 1. 調査内容

調査は、評価書で予測評価した以下の内容で行った。

#### 1) 移植を行った種の定着状況

移植先における移植種の生育状況を調査し、保全目標の達成状況を確認した。

#### 2) [ ] 希少植物の生育状況

移植先における移植種の生育状況を調査し、保全目標の達成状況を確認した。

#### 3) イトモの [ ] 再導入（仮移植先における生育状況）

平成 25 年度に [ ] 再導入を行うために仮移植したイトモについて、仮移植先での生育状況を調査した。

#### 4) カヤランの生育状況

カヤランの生育状況を調査し、保全目標の達成状況を確認した。

### 2. 調査方法

調査方法は、評価書の事後調査計画に示した内容に基づき、以下の方法で生育状況の確認を行った。

#### 1) 移植を行った種の定着状況

平成 23 年に移植を実施した移植先において、生育個体数、株高、葉量、葉色、活力度、地形状況、被圧状況、生育状況を確認するとともに、写真撮影を行った。

#### 2) [ ] 希少植物の生育状況

[ ] 生育する希少植物について、生育個体数(計数が困難な種については定性的な生育数)、生育状況を確認するとともに、写真撮影を行った。

#### 3) イトモの [ ] 再導入（仮移植先における生育状況）

仮移植先において生育状況を確認するとともに、写真撮影を行った。

#### 4) カヤランの生育状況

生育地において生育個体数、生育状況を確認するとともに、写真撮影を行った。

### 3. 調査地点

調査は、評価書で予測評価した地点で実施した。その位置は、図 8-7-1 に示すとおりである。

### 4. 調査期間・時期・頻度等

調査は、評価書の事後調査計画に基づき、各種の観察適期である表 8-7-1 に示す期日に実施した。

表 8-7-1 調査期日・時期・頻度等

調査内容	調査期間・時期・頻度等
移植を行った種の定着状況	平成 24 年 6 月 6 日～7 日
[ ] 希少植物の生育状況	平成 24 年 6 月 8 日：ルリソウ、ヒシ 平成 24 年 8 月 4 日：カンガレイ、ホッスモ、イトモ
イトモの [ ] 再導入（仮移植先における生育状況）	平成 24 年 8 月 4 日
カヤランの生育状況	平成 24 年 6 月 7 日～8 日



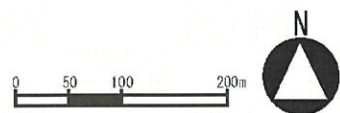
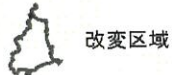
注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスキングあるいは非表示としました。



図 8-7-1 植物事後調査地点

凡例

- 移植を行った種の定着状況
- ▲ 希少植物の生育状況
- カヤランの生育状況
- ◎ イトモの生育状況





## 5. 調査結果

### 1) 移植を行った種の定着状況

調査結果は、表 8-7-2～10 のとおりである。ヒメフタバラン、アワコガネギク、ムカゴニンジンはいずれも個体数が増加しており、移植先で繁殖を行っていることを確認した。シケチシダ、ソヨゴ、ヒゴスミレ、シデシャジンはいずれも葉量、葉色とも良好で、食害や虫害は認められず、生育状況は良好であった。アイアスカイノデは、1 個体の減少を確認した。生育を確認したうちの 5 個体にカモシカによるものと考えられる食害が見られたため、食害によって減少したものと考えられる。生育個体はいずれも新葉が出ており、生育には問題ないものと考えられた。なお、移植を行った種については、生育期間中に概ね 1 ヶ月に 1 回状況確認を実施しており、その結果は資料編に示すとおりである。

表 8-7-2 調査結果概要

種名	確認数 (移植時点との比較)	特記事項
アイアスカイノデ	22 個体 (1 個体減)	5 個体にカモシカによるものと考えられる食害があり、1 個体の減少は、食害によるものと考えられる。生育個体はいずれも新葉が出ており、生育には問題ないものと考えられた。
シケチシダ	9 個体 (変化なし)	全個体に新葉が出ており、良好な生育状況であった。
ヒメフタバラン	200 個体 (50 個体増)	個体数の増加や生育確認数の 2 割に花が形成されていたことから、移植先で繁殖を行っていることを確認した。
ソヨゴ	1 個体 (変化なし)	新葉が出ており、良好な生育状況であった。
アワコガネギク	9 個体 (5 個体増)	種子から発芽したと考えられる小さな個体を 5 個体確認したことから、移植先で繁殖を行っていることを確認した。
ムカゴニンジン	10 個体 (1 個体増)	移植個体の下方に種子から発芽したと考えられる小さな個体を複数確認したことから、移植先で繁殖を行っていることを確認した。
ヒゴスミレ	1 個体 (変化なし)	個体数の増加は見られなかったが、葉量、葉色とも良好で、問題のない生育状況と考えられた。
シデシャジン	1 個体 (変化なし)	葉量、葉色とも良好で、食害や虫害は認められず、生育状況は良好であった。

#### 【表 8-7-3～表 8-7-10 の活力度の凡例】

- A—異常が全く見られず、今後も順調に生育していくものと考えられる。
- B—いくぶん異常が見られるが、あまり目立たず、今後も生育していく可能性があると考えられる。
- C—異常が明らかに認められ、今後の生育の可能性が低いものと考えられる。
- D—生育状態が劣悪で回復の見込みがなく、いずれ枯死する可能性が高いものと考えられる。
- E—ほとんど枯死している。

表 8-7-3 調査結果：アイアスカイノデ


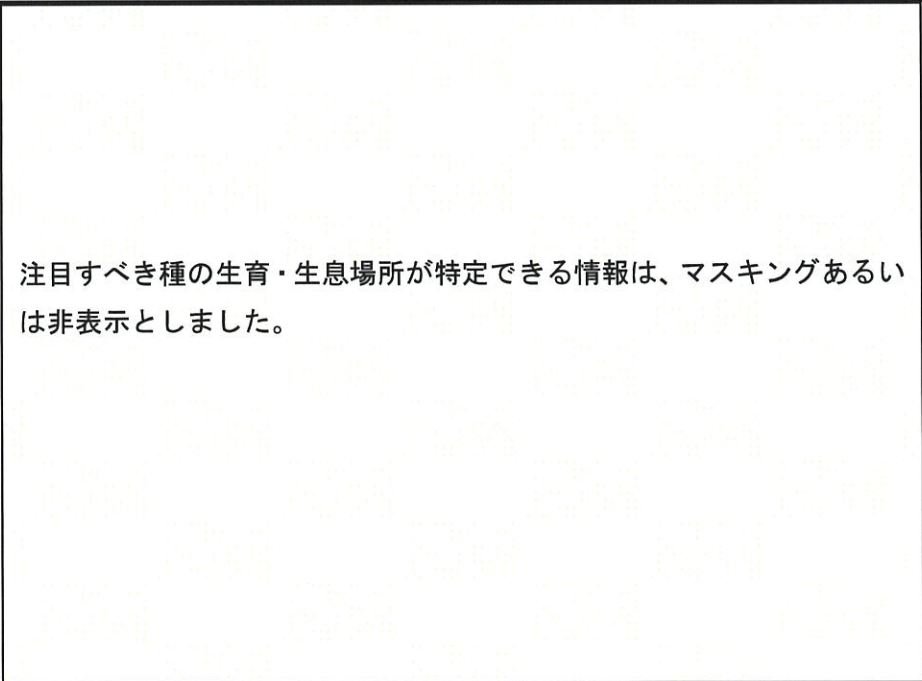
種名	アイアスカイノデ				
調査日	2012.6.7	移植数	23 個体	確認数	22 個体
株高	40～50cm	葉量(葉数)	2～5 枚	葉色	濃緑色
地形状況	特に変化なし。				
被圧状況	目立った被圧なし。				
生育状況	1 個体の減少が確認された。5 個体にカモシカによるものと考えられる食害が確認されたことから、減少の原因はカモシカによる食害と考えられた。生育が確認された個体は、いずれの個体にも新葉が出ており、生育には問題ないと考えられた。周囲は移植前の調査時と同様、アオキやチゴユリが生育しており、生育環境にも大きな変化はないものと考えられた。				
					
生育株（平成 24 年 6 月 7 日撮影）					
<p>注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスキングあるいは非表示としました。</p>					
					
移植地（平成 24 年 6 月 7 日撮影）					
活力度	A～B				



表 8-7-4 調査結果：シケチシダ


種名	シケチシダ				
調査日	2012. 6. 7	移植数	9 個体	確認数	9 個体
株高	25～30cm	葉量(葉数)	3～6 枚	葉色	緑色
地形状況	特に変化なし。				
被圧状況	バイケイソウが隣接して生育していた箇所があったが、目立った被圧は認められなかった。				
生育状況	食害や虫害もなく、特に問題ない生育状況であった。周囲は移植前の調査時と同様、ハシゴシダ等のシダ類が生育しており、生育環境にも大きな変化はないものと考えられた。				
					
生育株 (平成 24 年 6 月 7 日撮影)					
<p>注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスキングあるいは非表示としました。</p>					
移植地 (平成 24 年 6 月 7 日撮影)					
活力度	A				

表 8-7-5 調査結果：ヒメフタバラン

種名	ヒメフタバラン				
調査日	2012. 6. 7	移植数	100 個体	確認数	200 個体
株高	4～15cm	葉量(葉数)	全て 2 枚	葉色	濃緑色
地形状況	[マスク]認められたが、その部分にも生育個体が存在していた。その他の箇所は特に地形変化は認められなかった。				
被圧状況	アオキやササなどが生育しているが、現段階では影響はないものと考えられた。				
生育状況	生育確認数は 200 個体であるが、移植先には移植実施前に 50 個体が自生していたことから、差し引き 50 個体の増加と考えられる。生育個体のうち 2 割に花が形成されていたことから、移植先で繁殖を行っていることを確認した。食害や虫害はなかった。周囲は移植前の調査時と同様、アオキやチゴユリが生育しており、生育環境にも大きな変化はないものと考えられた。				
<p>注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスクングあるいは非表示としました。</p>					
<p>生育株（平成 24 年 6 月 7 日撮影）</p>					
<p>注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスクングあるいは非表示としました。</p>					
<p>移植地（平成 24 年 6 月 7 日撮影）</p>					
活力度	A				

表 8-7-6 調査結果：ソヨゴ

種名	ソヨゴ				
調査日	2012.6.7	移植数	1 個体	確認数	1 個体
株高	140cm	葉量(葉数)	多	葉色	淡緑～緑色
地形状況	特に変化なし。				
被圧状況	他の植物による被圧は認められなかった。				
生育状況	移植前に地面に這うようにあった主幹は葉の出が良くないが、根元から立ち上がっていた枝の方が葉付きが良いため、こちらが主幹になる可能性がある。越冬葉に食害があったが、新葉には食害や虫害は認められず、生育状況は良好であった。周囲は移植前の調査時と同様、イヌシデやアオハダなどの低木が生育しており、生育環境にも大きな変化はないものと考えられた。				
<p>注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスキングあるいは非表示としました。</p> <p>生育株（平成 24 年 6 月 7 日撮影）</p>					
<p>注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスキングあるいは非表示としました。</p> <p>移植地（平成 24 年 6 月 7 日撮影）</p>					
活力度	A				



表 8-7-7 調査結果：アワコガネギク


種名	アワコガネギク				
調査日	2012. 6. 6	移植数	4 個体	確認数	9 個体
株高	3~35cm	葉量(葉数)	多	葉色	緑色
地形状況	動物（カモシカの可能性がある）が移植先を移動している形跡があり、土砂が崩れている箇所があった。				
被圧状況	周囲に草本類が多数生育しているが、共存状態であり、著しい被圧はない。				
生育状況	移植した個体の周囲に草丈 15~35cm の個体が 4 個体生育しており、それらのやや下方に種子から発芽したと考えられる小さな個体が 5 個体認められ、移植先で繁殖を行っていることを確認した。食害や虫害はなかった。周囲は移植前の調査時と同様、スゲ類やヤマブキショウマなどが生育しており、生育環境にも大きな変化はないものと考えられた。				
 <p>生育株（平成 24 年 6 月 6 日撮影）</p>					
<p>注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスキングあるいは非表示としました。</p> <p>移植地（平成 24 年 6 月 6 日撮影）</p>					
活力度	A				



表 8-7-8 調査結果：ムカゴニンジン


種名	ムカゴニンジン				
調査日	2012. 6. 6	移植数	9 個体	確認数	10 個体
株高	35～40cm	葉量(葉数)	多	葉色	緑色
地形状況	特に変化なし。				
被圧状況	周囲に草本類が多数生育しているが、共存状態であり、著しい被圧はなかった。				
生育状況	移植した個体は全て継続して生育しているものと考えられる。食害や虫害はなかった。移植個体の下方に種子から発芽したと考えられる小さな個体が複数認められ、移植先で繁殖を行っていることを確認した。周囲は移植前の調査時と同様、ヘクソカズラやミツバツチグリなどが生育しており、生育環境にも大きな変化はないものと考えられた。				
 <p>生育株（平成 24 年 6 月 6 日撮影）</p>					
<p>注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスキングあるいは非表示としました。</p>					
<p>移植地（平成 24 年 6 月 6 日撮影）</p>					
活力度	A				

表 8-7-9 調査結果：ヒゴスミレ

種名	ヒゴスミレ				
調査日	2012.6.7	移植数	1 個体	確認数	1 個体
株高	18cm	葉量(葉数)	多	葉色	淡緑～緑色
地形状況	特に変化なし。				
被圧状況	他の植物による被圧は認められない。				
生育状況	個体数の増加は見られなかったが、葉量、葉色とも良好で、問題のない生育状況と考えられた。周囲は移植前の調査時と同様、ササ類やチゴユリなどが生育しており、生育環境にも大きな変化はないものと考えられた。				
<p>注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスキングあるいは非表示としました。</p> <p>生育株（平成 24 年 6 月 7 日撮影）</p>					
<p>注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスキングあるいは非表示としました。</p> <p>移植地（平成 24 年 6 月 7 日撮影）</p>					
活力度	A				



表 8-7-10 調査結果：シデシヤジン

種名	シデシヤジン				
調査日	2012. 6. 6	移植数	1 個体	確認数	1 個体
株高	20cm	葉量(葉数)	多	葉色	緑色
地形状況	特に変化なし。				
被圧状況	クズやコチヂミザサなどが生育しているが、目立った被圧は認められなかった。				
生育状況	葉量、葉色とも良好で、食害や虫害は認められず、生育状況は良好であった。地上部は同一個体から出ていると考えられる 3 本を確認した。周囲は移植前の調査時と同様、コチヂミザサやクズ、ヤブマメなどが生育しており、生育環境にも大きな変化はないものと考えられた。				
<p>注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスキングあるいは非表示としました。</p> <p>生育株（平成 24 年 6 月 6 日撮影）</p>					
<p>注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスキングあるいは非表示としました。</p> <p>移植地（平成 24 年 6 月 6 日撮影）</p>					
活力度	A				

2) 希少植物の生育状況

調査結果は、表 8-7-12～表 8-7-17 のとおりである。

現況調査（評価書とりまとめの際の平成 20 年に実施した調査を示す。以下同様。）時に確認したルリソウ、カンガレイ、ホッスモの生育状況を確認した。

ルリソウは個体数が若干減少しているものの、開花結実を確認したことから、現段階では生育状況に問題はないものと考えられる。

カンガレイは 1m を超す大きさであり、ほとんどが花を形成していた。大きな群落を 1 カ所、小さな群落を 2 カ所で確認し、これらは島状に独立しているため他の植物による被圧は無く、生育状況は良好であった。

ホッスモはオヒルムシロの水中茎の間を埋め尽くすような形で生育していた。生育密度は高密度であり、生育状況は良好であった。

現況調査時に確認したヒシとイトモの生育状況を確認した。

ヒシは両方に散生しており、現況調査時と同様な生育状況であることを確認した。

イトモはの下流側半分を埋め尽くすような形で繁茂しており、生育状況は良好であった。

表 8-7-12 調査結果概要

種名	現況調査時	確認数	特記事項
ルリソウ	約 30 個体 (平成 20 年 4 月 26 日)	24 個体 (平成 24 年 6 月 8 日)	個体数は若干減少しているが、約半数は開花結実中であり、現段階では良好な生育状況であった。
カンガレイ	1 群落(約 20 個体) (平成 20 年 8 月 10 日)	3 群落 (平成 24 年 8 月 4 日)	他の植物による被圧の影響はなかった。いずれの群落も草丈は 1m 以上あって花を形成しており、生育状況は良好であった。
ホッスモ	約 30 個体 (平成 20 年 8 月 9 日)	高密度に生育 (平成 24 年 8 月 4 日)	生育密度は高く、良好な生育状況であった。
ヒシ	散生 (平成 20 年 8 月 10 日)	散生 (平成 24 年 6 月 8 日)	散生しており、生育状況に大きな変化は見られなかった。
イトモ	少数を確認 (平成 20 年 8 月 8 日)	密生 (平成 24 年 8 月 4 日)	下流側を埋め尽くすような形で密生しており、良好な生育状況であった。



表 8-7-13 調査結果：ルリソウ


種名	ルリソウ		
調査日	2012. 6. 8		
確認数	24 個体	現況調査時確認数	約 30 個体
生育状況	[Redacted] 小群で生育していた。 個体数は若干減少していたが、約半数は開花結実中であり、現段階では良好な生育状況であった。		
			
生育株（平成 24 年 6 月 8 日撮影）			
注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスキングあるいは非表示としました。			
生育地（平成 24 年 6 月 8 日撮影）			

表 8-7-14 調査結果：カンガレイ

種名	カンガレイ		
調査日	2012. 8. 4		
確認数	3 群落	現況調査時確認数	1 群落(約 20 個体)
生育状況	<p>大きな群落は 1 カ所、小さな群落は 2 カ所あり、これらいずれも島状に独立していることから、他の植物による被圧の影響は見られない。</p> <p>いずれの群落も草丈は 1m 以上あって花を形成しており、生育状況は良好であった。</p> <p>水位は 56cm であり、底質の堆積物の増加など、大きな生育環境の変化は見られなかった。</p>		
			
生育株（平成 24 年 8 月 4 日撮影）			
<p>注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスキングあるいは非表示としました。</p>			
生育株（平成 24 年 8 月 4 日撮影）			



表 8-7-15 調査結果：ホッスモ


種名	ホッスモ		
調査日	2012. 8. 4		
確認数	水中、ほぼ全域に高密度に生育	現況調査時確認数	約 30 株
生育状況	<p>生育密度は高く、良好な生育状況であった。                  水面をオヒルムシロが覆っており、その水面下に密生しているため、現段階では被圧による影響はないものと考えられた。                  水位は 56cm であり、底質の堆積物の増加など、大きな生育環境の変化は見られなかった。</p>		
			
<p>生育株（平成 24 年 8 月 4 日撮影）</p>			
<p>注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスキングあるいは非表示としました。</p>			
<p>生育地（平成 24 年 8 月 4 日撮影）</p>			

表 8-7-16 調査結果：ヒシ



種名	ヒシ		
調査日	2012. 6. 8		
確認数	散生	現況調査時確認数	散生
生育状況	<p>散生しているのを確認した。生育数は現況調査時と同程度であり、生育状況に大きな変化は見られなかった。周辺には現況調査時と同様、オヒルムシロが生育しており、生育環境にも大きな変化はないものと考えられた。</p>		
 <p>生育株（平成 24 年 6 月 8 日撮影）</p>			
<p>注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスキングあるいは非表示としました。</p>			
<p>生育地（平成 24 年 6 月 8 日撮影）</p>			



表 8-7-17 調査結果：イトモ

種名	イトモ		
調査日	2012. 8. 4		
確認数	密生	現況調査時確認数	少数を確認
生育状況	埋め尽くすような形で密生しており、良好な生育状況であった。 周辺には現況調査時と同様、オヒルムシロやヒシの生育が確認されたが、被圧はないものと考えられた。		
 <p>生育株（平成 24 年 8 月 4 日撮影）</p>			
<p>注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスキングあるいは非表示としました。</p>			
<p>生育地（平成 24 年 8 月 4 日撮影）</p>			

3) イトモの ██████████ 再導入（仮移植先での生育状況）

██████████ 生育するイトモについては、██████████ ██████████ 影響が想定されるため、保全措置として工事着工前の平成 23 年度に ██████████ その一部を仮移植し、今後、██████████ 平成 25 年度に ██████████ 再導入する計画である。今年度は仮移植先での生育状況を確認した。

その結果、8 月 4 日の調査時点でイトモは確認できず、消失したと判断した。イトモの仮移植については、平成 23 年度以降、以下のような経緯があった。消失の原因として、平成 24 年の 5 月連休中にあった豪雨の後に、██████████ 確認したことから、この際にイトモが ██████████ 考えられる。

一方、生育元である ██████████ 8 月 4 日時点でイトモが多数生育しているのを確認した。██████████ 8 月 25 日にその一部を再度同じ位置に仮移植した。豪雨に伴う氾濫対策として、██████████ 交換した。

【イトモ仮移植先での経緯】

平成 23 年 8 月 3 日 ██████████ 仮移植を実施。  
 平成 23 年 9 月 21 日 仙台管区気象台で 235mm/日、泉ヶ岳アメダス観測所で 160.0mm/日の豪雨。██████████  
 平成 23 年 10 月 29 日 ██████████ 仮移植容器を ██████████ 一時待避。この際、越冬のため殖芽になったイトモを複数確認。  
 <ここまで事後調査報告書（第 1 回）で報告>

平成 24 年 4 月 7 日 ██████████ 完了したため、再び ██████████ 移動。この際、殖芽を複数確認。  
 平成 24 年 5 月 3 日 仙台管区気象台で 130.5mm/日、泉ヶ岳アメダス観測所で 211.5mm/日の豪雨。  
 平成 24 年 5 月 15 日 仮移植容器が支柱から離れ、██████████ 状態となっているのを確認。先の豪雨で ██████████ 考えられた。この際、イトモと考えられるものは確認できず。██████████ 戻した。  
 平成 24 年 8 月 4 日 生育状況調査時にイトモは確認できず。消失と判断。生育元の ██████████ 多数の生育を確認。  
 平成 24 年 8 月 25 日 ██████████ 生育するイトモの一部を、再度同じ位置に仮移植。██████████ 変更。

表 8-7-18 調査結果概要

種名	確認数 (仮移植時との比較)	再仮移植数	特記事項
イトモ	0 (消失)	個体群の一部	生育は確認できず、消失と判断した。5 月連休中にあった大雨で ██████████ 消失の原因と考えられた。生育元の ██████████ 多数が生育していたため、その一部を再度同じ位置に仮移植した。



注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスクングあるいは非表示としました。

写真 8-7-3 仮移植先での状況(平成 24 年 8 月 4 日撮影) イトモは確認されなかった。

注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスクングあるいは非表示としました。

写真 8-7-4 再び仮移植した状況(平成 24 年 8 月 25 日撮影)

#### 4) カヤランの生育状況


調査結果は、表 8-7-19～表 8-7-20 のとおりである。

確認個体数は 26 個体であり、現況調査時の 18 個体から増加した。また、その多くが花を付けていたことから、良好な生育状況と考えられた。また、本種が着生している ██████████ 樹木についても、外観で生育状況が悪いものは確認できなかったことから、生育環境にも大きな変化はないものと考えられた。

表 8-7-19 調査結果概要

種名	確認数 (現況調査時 との比較)	特記事項
カヤラン	26 個体 (8 個体増)	株数は現況調査時から増加しており、多くの個体が花を付けていたことから、良好な生育状況と考えられた。また、生育環境も大きな変化はないものと考えられた。

表 8-7-20 調査結果：カヤラン

種名	カヤラン		
調査日	2012. 6. 8		
確認数	26 個体	現況調査時確認数	18 個体
生育状況	株数は現況調査時から増加しており、多くの個体が花を付けていたことから、良好な生育状況と考えられた。 また、本種が着生している ██████████ 樹木についても、外観で生育状況が悪いものは確認できなかったことから、生育環境にも大きな変化はないものと考えられた。		
			
生育株 (平成 24 年 6 月 8 日撮影)			



6. 予測結果の検証及び保全目標の達成状況

1) 移植を行った種の定着状況

評価書において移植を行った種の保全目標は「移植個体数と同等の個体数が定着すること」としているが、移植を行ったアワコガネギクなど 8 種については、表 8-7-21 に示すとおり、全て移植先で移植個体数と同等の個体数を継続して確認したことから、現段階では保全目標を達成していると判断する。

表 8-7-21 移植を行った種の定着状況に係る検証

種名	移植数 (平成 23 年)	確認数 (平成 24 年)
アイアスカイノデ	23 個体	22 個体 (1 個体減)
シケチシダ	9 個体	9 個体 (変化なし)
ヒメフタバラン	100 個体	200 個体 (移植前に 50 個体自生していたため、50 個体増)
ソヨゴ	1 個体	1 個体 (変化なし)
アワコガネギク	4 個体	9 個体 (5 個体増)
ムカゴニンジン	9 個体	10 個体 (1 個体増)
ヒゴスミレ	1 個体	1 個体 (変化なし)
シデシヤジン	1 個体	1 個体 (変化なし)

2) XXXXXXXXXX 希少植物の生育状況

評価書において XXXXXXXXXX 生育する希少植物の保全目標は「現況調査時と同様の個体数が生育していること」としているが、概ね現況調査時と同等かそれ以上の個体数が確認されたことから、現段階では保全目標を達成していると判断する。

表 8-7-22 XXXXXXXXXX 希少植物の生育状況に係る検証

種名	現況調査時の生育数 (平成 20 年)	確認数 (平成 24 年)
ルリソウ	30 個体	24 個体 (6 個体減)
カンガレイ	1 群落 (約 20 個体)	3 群落 (増加)
ホッサモ	約 30 個体	高密度に生育 (増加)
ヒシ	<span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span> 散生	<span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span> 散生 (変化なし)
イトモ	少数を確認	<span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span> 密生 (増加)

### 3) イトモの [ ] 再導入（仮移植先での生育状況）

評価書において [ ] 生育するイトモの最終的な保全目標は「 [ ] 生育する個体群が維持されること」としているが、仮移植個体を [ ] 再導入するのは平成 25 年度であるため、現段階では保全目標の達成状況を判断することはできない。今回の調査では、再導入までの間の仮移植先における生育状況を確認した。その結果、イトモは確認できず、消失と判断した。その原因としては、5 月の豪雨で [ ] 考えられる。生育元の [ ] イトモが多数生育していたことから、再びその個体群の一部を仮移植し、再導入する分を確保した。今後の [ ] 交換した。

表 8-7-23 イトモ仮移植先での調査結果概要

種名	仮移植数 (平成 23 年)	仮移植先での生育数 (平成 24 年 8 月 4 日)	再仮移植数 (平成 24 年 8 月 25 日)
イトモ	水中茎 55 本以上	0 (消失)	個体群の一部

### 4) カヤランの生育状況

評価書においてカヤランの保全目標は「生育状況に大きな変化がないこと」としているが、表 8-7-24 に示すとおり、個体数の増加が確認され、その多くは花を付けていたため、生育状況に大きな変化はないものと考えられることから、現段階では保全目標を達成していると判断する。

表 8-7-24 カヤランの生育状況に係る検証

種名	現況調査時の生育数 (平成 20 年)	確認数 (平成 24 年)
カヤラン	18 個体	26 個体 (8 個体増)